

管内各小・中・義務教育学校において、いじめ・不登校の「未然防止」に向けた「**短時間で継続的に行う『人間関係づくりプログラム』の推進**」や「**SC・SSW等の専門スタッフと連携した校内対策委員会の定期的開催**」等、**学校の組織的な取組**が進められています。以下に、2学期の取組状況から、「**成果が表れている**」と報告された取組事例を紹介します。自校のいじめ・不登校対策等の推進に向けた参考資料としてご活用ください。

1. 「人間関係づくりプログラム」 取組

九重町立淮園小学校



少規模校なので、全校を2つに分けて実施している(3年以下と4年以上)。「振り返り」の内容を紹介し合い、相手のことで、初めて知ったことや相手のよかったところを共有していった。全校仲がよく、トラブルはほとんどない。

玖珠町立くす星翔中学校

「つむつむ」×「ほめほめ」タイム③
 クラスメートの「夢・目標」に、
 あなたの応援メッセージを伝えよう

4月から始まったこの学年・学級での生活も7か月がたちました。いろいろなできごとがあったことでしょう。クラスメートの「**夢・目標**」に、**あなたの応援メッセージ**を書いて伝えてみましょう。
 ()年()組()番 名前()

あなたの「夢・目標」

グループの人の名前	あなたの本気の応援メッセージ

感想

毎週水曜日の帰りの会前に実施している「つむつむタイム」の時間に、目標協働達成会議(CS)が取組んでいる「ほめる・ありがとうDay」「夢を語ろうDay」を2週続けて実施した。

子どもたちが楽しそうに互いをほめ合い、夢を語り合っている様子から、先生方からも「またやってみたい」との感想が聞かれた好取組となった。

第3ステージ「自分(たち)の可能性への挑戦」が終わりました。この期間に、自分(たち)の可能性に挑戦しようとする雰囲気が高まり、素晴らしい全校合唱を創り上げることができました。
 第4ステージ「学年集団・学校集団の発展」では、目標達成させた自信のもとに、学級での学習と生活の充実、よりよい仲間づくり、協働的な学習のまとめ・発表に取り組んでいきましょう。

九重町立飯田小学校



異学年による「スマイルタイム」の様子

2. 「人間関係づくりプログラムの取組」 成果

①取組の工夫

○小規模校では全校を2グループ(3年以下、4年以上)や3グループ(低・中・高)に分けて実施した。

○生徒集会や各行事ごとに「人間関係づくりプログラム」や生徒自身によるプレゼンを実施した。

○個人の「振り返り」や他者の感想を口メモで共有することで、自尊感情を高め、お互いを尊重する心が育まれている。

②子どもの姿

○自分や友達の変容・成長に気づけるようになった。

○他者との違いを認め、自分の考えを伝えられるようになった。

○以下のアンケート結果から協働性と人間関係の改善がみられる。「友だちや集団の役に立ちたい」「クラスの間関係が良くなっている」「話してみたら、友だちの新しい一面を知った」等

○他者と積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢が見られるようになった。

③教職員の姿

○「振り返り」の内容を担当が把握し、個々の状況把握に役立てたり、次回の活動や指導に反映させたりしている。

○学級経営の「現在地」を確認し、生活指導への取組に生かしている。

○「人間関係づくりプログラム」の指導改善に向けた教職員間の意見交流が促進されている。

3. 「SC・SSW等の専門スタッフと連携した校内対策委員会」 成果

①組織的な会議の実施と体制づくり

○定期的な会議の開催及び専門スタッフの助言等により、組織的な対応を行っている。

○SC・SSW、心の相談員、教育センターの不登校対策相談員などが会議に加わり、チーム体制を構築できた。

○小中合同での情報共有や、児童相談所(児相)などの外部機関と連携したケース会議を開催した。

○SC・SSWの勤務日に合わせた会議設定や、参加できない場合の事前情報共有など、コーディネーターを中心とした日程調整の工夫を行った。

②支援の質的向上

○専門家による客観的な視点を取り入れることで、生徒理解が深まっている。

○専門的な立場(第三者的視点)からのアドバイスを受け、学校としての対応策の改善が図られた。

○対象児童・生徒一人ひとりの状況に合わせ、個に応じた具体的な支援方法の決定と方向性を確認できた。

③情報共有と周知

○会議で得られた情報を職員会議や拡大運営委員会等を活用して教職員全体で共有している。

○出席状況を定期的に共有し、迅速な登校支援につなげている。

○専門的な立場からの助言を交えた保護者面談を積極的に行い、家庭との連携を強化している。